

# 昭和女子大学心理臨床卒後研究会 2008年度活動報告

## 1. 会の目的

本研究会は、生活心理研究所の活動の一部として、昭和女子大学大学院（心理系）の修了生を中心に構成され、会員が担当している事例の検討を通して、心理臨床家としての知見・技術の向上をはかることを目的とした会である。

## 2. 研究会のメンバー構成

登録されている本学の修了生は計29名であり（3期生～10期生：2000年～2007年修了生）、3期生1名、4期生3名、7期生3名、8期生5名、9期生8名、10期生9名となっている。現在の所属分野は、教育領域11名、医療領域4名、福祉領域2名、大学院博士課程3名、その他・不明9名である。

## 3. 活動報告（各回）

回	開催日時	テーマ	講師名	出席者数
第1回	2008年4月15日（火） 19:30～21:30	事例検討「友人関係での悩みから不登校ぎみになった、中学生男子の事例」	山登敬之先生 （東京えびすさまクリニック）	5名
第2回	2008年6月7日（土） 15:00～17:30	事例検討「箱庭を中心とした小5女兒との遊戯療法」	平尾美生子先生 （元昭和女子大学大学院教授）	7名
第3回	2008年6月7日（土） 18:30～21:00	事例検討「暴力・暴言を主訴とした男児の事例」	稲富正治先生 （川崎幸クリニック）	6名
第4回	2008年7月19日（土） 15:00～17:30	「ストレスに関する理解」と、「動作法やストレスマネジメントとの出会い・実践」についての講義	坂上頼子先生 （東京都スクールカウンセラー、東京都保育カウンセラー、動作法・ストレスマネジメント研修会「オフィスかけはし」主宰）	11名
第5回	2008年7月19日（土） 18:00～20:30	ストレスマネジメントの実践のワーク	坂上頼子先生 （同上）	10名
第6回	2008年10月25日（火） 10:00～12:00	事例検討「感情・行動のコントロールが難しく、多動・対人面でのトラブルが目立つ男児の事例」	鵜養啓子先生 （昭和女子大学大学院）	5名
第7回	2009年3月13日（金） 19:00～21:00	事例検討「統合失調症、失調型人格障害疑いの青年に対するカウンセリング」	山登敬之先生 （東京えびすさまクリニック）	

## 4. 今年度の活動全体のまとめ

今年度は3期生から10期生までの修了生が参加し、事例検討でのディスカッションや講義・ワークを通して、心理臨床家としての日常の活動を振り返り、学び合うことができた。